

**AKAI**  
professional

---

**MPC5000**  
MUSIC PRODUCTION CENTER

▶ V2.00 追加マニュアル



メインモード上の変更点.....	1
トラック ロック 機能.....	1
MIDI 受信インジケータ.....	1
操作に関する改善点.....	1
■ “シーケンス” と “トラック” フィールドのクイックセレクト.....	1
■ [SHIFT]ボタン + パッドによるトラック選択.....	2
メトロノームに関する改善点.....	2
■ ボリューム.....	2
■ アウトプット.....	2
トラック・ミュート及びパッド・ミュートのクオンタイズ.....	3
■ トラック・ミュート.....	3
■ パッド・ミュート.....	3
■ トラック/パッドミュートクオンタイズのタイミングコレクト設定.....	3
トラックミュートモードでのシーケンスチェンジ.....	3
ネクスト・シーケンス機能の “ネクスト バー”.....	4
ステップモードの変更点.....	5
トラック ロック 機能.....	5
システムエクスクルーシブメッセージの挿入.....	5
■ エクスクルーシブデータの編集.....	5
グリッド・エディット モード上の変更点.....	6
トラック ロック 機能.....	6
コントローラー ・ ビュー.....	6
ソング・モードの変更点.....	8
■ ロケート機能.....	8
レコーディング・サンプル モードの変更点.....	9
HD RECORD モードの変更点.....	10
HD RECORD モードでの Track Mix 操作.....	10
■ Track Mix の選択.....	10
■ HD Mixer モードへの戻り.....	10
ハードディスク・トラックの編集機能の変更点.....	10
MIXER モードの変更点.....	11
Take Over モード.....	11
MIXER モードでの Track Mute 設定.....	11

TRIM モードの変更点 .....	12
Sample のポップアップリスト .....	12
チョップショップ機能 (ChopShop) の変更点 .....	12
■ ズーム .....	12
■ パッチド・フレーズ からスライス・サンプルへのコンバート .....	12
その他の改善点 .....	13
■ TRIM モードでのサンプル・アサイン .....	13
■ エディットしたいパッドのサンプル選択 .....	13
■ サンプルの Root Note の設定 .....	13
サンプルエディットの新機能 .....	14
■ ゲイン機能 (Gain) .....	14
■ ビットリデュース機能 (Bit Reduce) .....	14
■ フェードイン機能 (Fade In) .....	14
■ フェードアウト機能 (Fade Out) .....	15
PROGRAM モードの変更点 .....	16
KEYGROUP タイプのプログラム .....	16
■ キーグループプログラムの作り方 .....	16
■ キーグループを増やし方 .....	17
■ サンプルレイヤークロスフェードの設定 .....	17
■ それぞれの サンプルのパンニングの設定 .....	18
■ チューニングとルートノートの設定 .....	18
■ キートラッキングの設定 .....	18
■ キーグループ・チューンとトランスポーズの設定 .....	19
■ ピッチベンド / モジュレーションホイール・アフタータッチの設定 .....	19
サンプルプログラムの改善点 .....	19
■ プリ・サンプルパンニングの設定 .....	19
■ マルチ・パッド・エディットの設定 .....	20
■ プログラムチューンの設定 .....	21
エンベロープクイックアクセス .....	21
追加改善点 .....	21
■ サンプルのアサイン .....	21
EFFECT モードの変更点 .....	22
エフェクト セットアップのコピー / ペースト / スワップ 機能 .....	22
■ [F2] COPY .....	22
■ [F3] PASTE .....	22
■ [F5] SWAP .....	22
■ エフェクトリスト上での操作性の向上 .....	22

DISK モードの変更点 .....	23
サンプルロード時の自動プログラム・アサイン機能 .....	23
サンプルデータロード時の新しいプログラムの作成 .....	23
その他、変更点 .....	24
■ サンプルのロード .....	24
■ シンセ・プログラムのオーディション .....	24
■ ファイル・ブラウザー上における操作性の向上 .....	24
Q-LINK モードの変更点 .....	25
FX Q-LINK 機能 .....	25
■ FX Q-LINK スライダー 及びノブの設定 .....	25
デフォルト Q-LINK モードの設定 .....	26
■ デフォルト Q-LINK モードの切り替え .....	26
MIDI/SYNC モードの変更点 .....	27
MIDIプログラムチェンジによるアクティブ・トラック選択 .....	27
OTHER モードの変更点 .....	28
プログラム・オーディション・ノート .....	28
新しいフットスイッチ項目 .....	28
■ NEXT TRACK .....	28
■ PREV TRACK .....	28
■ NEXT SEQUENCE .....	28
■ PREV SEQUENCE .....	28
■ INC .....	28
■ DEC .....	28

## メインモードの変更点

### トラック ロック 機能

シーケンストラックのロックができるようになりました。

不用意な操作によるトラック上のシーケンスデータの変更、削除などからシーケンスデータを守ります。

MIDI ノート、コントロールチェンジ、Q-Link イベントなどすべてのデータは保持されます。

ロックが有効になっているトラックにおいて、異なるプログラムでの演奏を試すため、そのトラックのプログラムを変更することはトラックロックが有効の状態でも可能となります。

トラック ロックの状態は、右記のようにトラックフィールドの左横にパドロック型アイコンにより表示されます。ロックとその解除の仕方は次のように行います。

1. トラック ロックアイコンを選択して下さい。

トラックロックアイコンは右記のようにトラックフィールドの左横にパドロック鍵のような形のアイコンで表示されております。

2. [DATA] ホイールを回すか、[+]または[-]ボタンを押すことで、トラックロックアイコンを動かすことができます。

下記のようにトラックロックの状態をアイコンで表示します。



アンロックの状態

ロックの状態

Now: 001.01.000

Sequence: 01-Sequence 01	□	.....
BPM: 120.0		.....
Time Sig: 4/4		.....
Bars: 2		Loop: ON
-----		
Track: 01-Track 01		
Program: Program 001		
Type: DRUM		Mute: OFF
Velocity%: 100		MIDI: OFF
T.C.	CLICK	TR - TR + MUTE SOLO

### MIDI 受信インジケータ

MIDI 受信インジケータがメインページに追加になりました。

MIDI IN 1または2に MIDI 信号の入力が検出されると、右の図のようにインジケータが点滅します。

Now: 001.01.000

Sequence: 01-Sequence 01	□	.....
BPM: 120.0		.....
Time Sig: 4/4		.....
Bars: 2		Loop: ON
-----		
Track: 01-Track 01		
Program: Program 001		
Type: DRUM		Mute: OFF
Velocity%: 100		■MIDI: OFF
T.C.	CLICK	TR - TR + MUTE SOLO

### 操作に関する改善点

メインモードにおいて、下記のショートカットが有効となりました。

“シーケンス”と“トラック”フィールドのクイックセレクト

[SHIFT] + カーソル[上] ボタン “シーケンス”フィールドにカーソルがジャンプします。

[SHIFT] + カーソル[下] ボタン “トラック”フィールドにカーソルがジャンプします。

## [SHIFT]ボタン + パッドによるトラック選択

メインモードにおいて、[SHIFT] ボタンを押しながらパッドを叩くことで、パッドの番号に一致したトラックが選択されます。下記のような番号によって、トラックは選択されます。

パッドナンバー	トラックナンバー
パッド A01 - A16	トラック 1-16
パッド B01 - B16	トラック 17-32
パッド C01 - C16	トラック 33-48
パッド D01 - D16	トラック 49-64

## クリック/メトロノームに関する改善点

下記のパラメータが追加となりました。

### Volume

メトロノームの総合的なレベルを設定します。(10 ~ 100%)

### Out

メトロノーム音の出力先を設定します。

下記の出力先が選択可能です。

#### LR

[STEREO OUT]端子へメトロノーム音を出力します。

#### 1/2

アサインابل ミックス アウト[1][2] 端子へメトロノーム音を出力します。

#### 3/4

アサインابل ミックス アウト[3][4] 端子へメトロノーム音を出力します。

#### 5/6

アサインابل ミックス アウト[5][6] 端子へメトロノーム音を出力します。

#### 7/8

アサインابل ミックス アウト[7][8] 端子へメトロノーム音を出力します。

#### 1-8

アサインابل ミックス アウト[1] ~ [8] 端子のいずれかのひとつの端子へメトロノーム音をモノラル出力します。



**Tip:** クリック/メトロノームについての詳細に関しては、MPC5000 リファレンス マニュアル P41 をご覧ください。

## トラック・ミュート及びパッド・ミュートのクオンタイズ機能

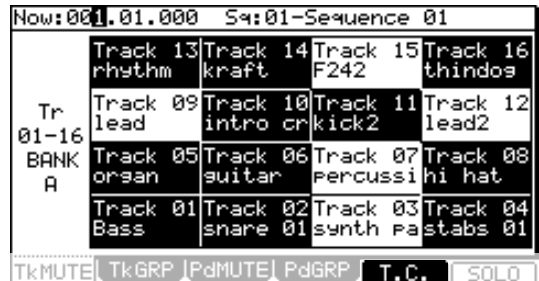
トラックミュート及びパッドミュートにクオンタイズが行えるようになりました。この機能はシーケンス演奏中に有効となります。

### トラック・ミュート

トラックミュートのクオンタイズを有効にする手順は下記の通りです。

- [TRACK MUTE] ボタンを押します。  
このとき右のように“トラックミュート”ページが開きます。
- [F1] (Tk MUTE) ボタンを押し、TRACK MUTE タブを選択します。
- [F5] (T.C.) ボタンを押します。  
[F5] ボタンを押すと右図のように、[T.C.] が黒から白い点灯になります。
- ミュートしたいトラックに相当するパッドを押してください。

次のタイミングコレクト設定の区切りで、選択したトラックがミュートされます。



**Tip:** トラック・ミュートについての詳細に関しては、MPC5000 リファレンス マニュアル P85 をご覧ください。  
タイミング・コレクトについての詳細に関しては、MPC5000 リファレンス マニュアル P39 をご覧ください。

### パッド・ミュート

パッドミュートのクオンタイズを有効にする手順は下記の通りです。

- [TRACK MUTE] ボタンを押します。  
トラックミュートページが開きます。
- [F3] (PdMUTE) ボタンをおして、PAD MUTE タブを選択します。
- [F5] (T.C.) ボタンを押します。  
[F5] ボタンを押すと右図のように、[T.C.] が黒から白い点灯になります。
- ミュートしたいパッドを押してください。

次のタイミングコレクト設定の区切りで、選択したトラックがミュートされます。

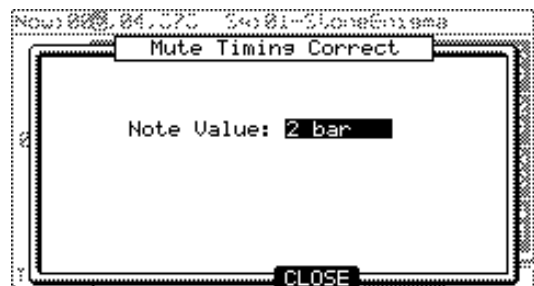


**Tip:** パッド・ミュートについての詳細に関しては、MPC5000 リファレンス マニュアル P88 をご覧ください。  
タイミング・コレクトについての詳細に関しては、MPC5000 リファレンス マニュアル P39 をご覧ください。

トラック/パッドミュートモードにおいてタイミングコレクト設定を行う際は [WINDOW] ボタンを押します。メインモードでのタイミングコレクト設定とは別のタイミングコレクト設定となっておりトラック/パッドミュート用のタイミングコレクト設定です。

下記の値が選択可能です。

2 Bar	2 小節
1 Bar	1 小節
1/4	4 分音符
1/4(3)	3 連 4 分音符
1/8	8 分音符
1/8(3)	3 連 8 分音符
1/16	16 分音符





## トラックミュートモードでのシーケンス・チェンジ

トラックミュートモード内でシーケンスチェンジが行えるようになりました。

シーケンスチェンジは下記のように行います。

1. [TRACK MUTE] ボタンを押します。  
このとき右のように“トラックミュート”ページが開きます。
2. [F1] (TkMUTE) ボタンを押し、TRACK MUTE タブを選択します。
3. “Sq”フィールドにカーソルを移動します。
4. [ + ] / [ - ] ボタンもしくは [ DATA ] ホイールを使って次のシーケンスを選択します。

Now: 001.04.605 Sq: 11				12-Prechorus1				
Tr 01-16 BANK A	Track 13	Track 14	Track 15	Track 16	(unused)	(unused)	(unused)	(unused)
	Track 09	Track 10	Track 11	Track 12	(unused)	(unused)	(unused)	(unused)
	Track 05	Track 06	Track 07	Track 08	(unused)	(unused)	(unused)	(unused)
	Track 01	Track 02	Track 03	Track 04	(unused)	(unused)	(unused)	(unused)
TkMUTE	TkGRP	PdMUTE	PdGRP	T.C.	SOLO			

右図のように“>”の横に、次に演奏されるシーケンス名が表示されます。  
現在のシーケンスの演奏が終わった後、次のシーケンスに切り換ります。

## ネクスト・シーケンスのネクストバー機能

“ネクストバー”を使うことで、現在演奏している小節の終わりからシーケンスを切り替えることができます。

ネクスト・シーケンスモードで、下記の手順にて行います。

1. シーケンス再生中、切り替えたいシーケンスに相当するパッドを叩きます  
スクリーンの左下に選択したシーケンス名が表示されます。
2. [F3] (NXTBAR) ボタンを押します。  
[NXTBAR] ボタンを押すとアクティブの状態となり点灯、現在演奏している小節の終わりから、選択したシーケンスに切り換り演奏されます。

**Tip:** ネクスト・シーケンスについての詳細に関しては、MPC5000 リファレンス マニュアル P36 をご覧ください。

## ステップモードの変更点

### トラック ロック 機能

シーケンスの独立したトラックの編集をロックできるようになりました。様々な機能の処理からトラック上のデータは保護され、不用意な操作によるトラック上のシーケンスデータの変更、削除や追加などからシーケンスデータを守ります。MIDI ノート、コントロールチェンジ、Q-Link イベントなどすべてのデータは保持されます。ロックが有効になっているトラックで、異なるプログラムによる演奏を試すために、そのトラックのプログラムを変更することはトラックロックが有効の状態でも可能です。

トラック ロックの状態は、右の図のようにディスプレイ右上にパドロック型アイコンにより表示されます。ロックとその解除の仕方は次のように行います。

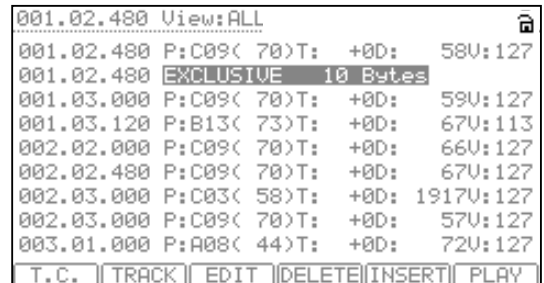
1. トラック ロックアイコンを選択して下さい。
2. [DATA] ホイールを回すか、[+]または[-]ボタンを押すことで、トラックロックアイコンを動かすことができます。

下記のようにトラックロックの状態をアイコンで表示します。



アンロックの状態

ロックの状態



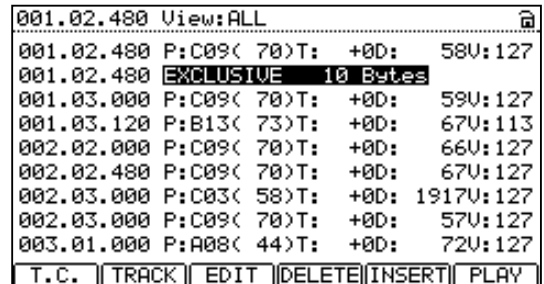
## システムエクスクルーシブメッセージの挿入

システムエクスクルーシブイベントとは、プログラム・パラメータのような非標準的なものとなっており、様々なMIDI機器のプリセット編集データやチューニング情報などをコントロールするためにメーカーごとに様々なシステムエクスクルーシブコマンドが用いられています。それらのコマンドはMIDIコントロール・チェンジ情報を使っても編集ができないような特殊なパラメータとなっています。このたびMPC5000でこのようなシステムエクスクルーシブデータの記録および再生ができるようになりました。制御対象の機器のためにどのようなエクスクルーシブ情報が必要かは、それぞれのユーザーマニュアルをご参照ください。

### ■ エクスクルーシブデータの編集

ステップエディットモードでエクスクルーシブデータの編集が行えます。

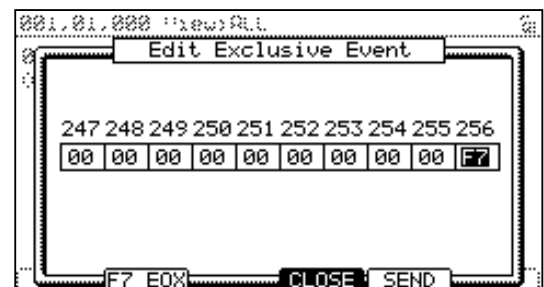
右の図のようにエクスクルーシブイベントを選択し、[WINDOW] ボタンを押します。



それぞれのバイトごとにデータが表示されます。カーソル[左][右]ボタンを使って横にスクロールさせることができます。変更したいバイトを選択して、データホイールにて編集します。

エクスクルーシブデータの長さを変更するには、カーソル[左][右]ボタンを使ってエクスクルーシブデータの最後のバイトを選択をして、[F2] (F7 EOX)ボタンを押します。[F2] (F7 EOX)ボタンを押すことで、最後のバイトに "F7" が入力されます。

[F5] (SEND) ボタンを押すことで現在選択されているエクスクルーシブデータが送信されます。編集を終了する際は、[F4] (CLOSE) ボタンを押します、そしてウィンドウは閉じます。



## グリッド・エディット モード上の変更点

### トラック ロック 機能

シーケンストラックのロックできるようになりました。

不用意な操作によるトラック上のシーケンスデータの変更、削除や追加などからシーケンスデータを守ります。

MIDI ノート、コントロールチェンジ、Q-Link イベントなどすべてのデータは保持されます。ロックが有効になっているトラックで、異なるプログラムによる演奏を試すために、そのトラックのプログラムを変更することはトラックロックが有効の状態でも可能です。

トラック ロックの状態は、右の図のようにディスプレイ右上にパドロック型アイコンにより表示されます。ロックとその解除の仕方は次のように行います。

1. トラック ロックアイコンを選択して下さい。
2. [DATA] ホイールを回すか、[+]または[-]ボタンを押すことで、トラックロックアイコンを動かすことができます。

下記のようにトラックロックの状態をアイコンで表示します。



アンロックの状態



ロックの状態



### コントローラー・ビュー

グリッドエディットモードにおいて、Q-Link コントローラー、ピッチベンド、FX オートメーションイベント、MIDI コントロールチェンジなどの情報をリニアグラフビューで表示できるようになりました。

コントローラー・ビューの表示方法は、下記のように行います。

1. グリッドエディットモードにて 'View' フィールドにカーソルを合わせて、ビューイベント設定にて表示させたい項目を選択します。

下記のビューイベントが選択可能です。

#### PITCH

選択しているトラックに記録されているピッチベンド情報が表示されます。

#### CONTROL

選択しているトラックに記録された連続的な MIDI コントロールチェンジ情報が表示されます。このとき "CONTROL" フィールドの右横にある追加フィールドにおいて、特定の MIDI コントロールチェンジナンバーもしくは ALL が選択できます。

#### CH PRES

選択しているトラックに記録されたチャンネル・プレッシャー情報が表示されます。

#### PY PRES

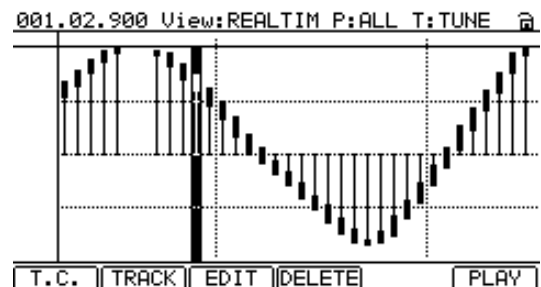
選択しているトラックに記録されたポリ・プレッシャー情報が表示されます。

#### REALTIM

選択しているトラックに記録されたリアルタイム Q-Link イベントが表示されます。このとき "REALTIM" フィールドの右横にある追加フィールドにおいて、特定の PAD ナンバーとイベントタイプが選択できます。

#### FX AUTO

選択しているトラックに記録された FX オートメーション・イベントが表示されます。このとき "FX AUTO" フィールドの右横にある追加フィールドにおいて、特定のエフェクトバスとパラメータナンバー (ALL, 1-12) が選択できます。

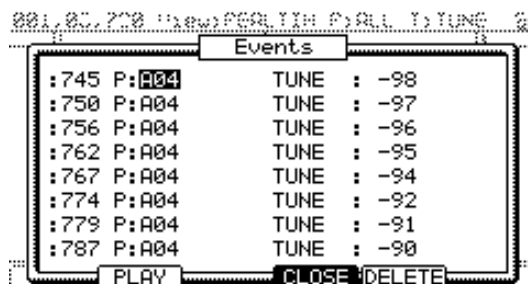


2. それぞれのイベントを編集するには、コントローラービューの表示上で、[ DATA ]ダイヤルもしくは、カーソル[左][右]ボタンを使ってイベントを選択します。

[ F4 ] (DELETE) ボタンを押すと選択されているイベントが削除されます。[F3](EDIT)を押しながら[F2](MOVE)もしくは[F4](COPY)、[F5](PASTE)を押すことで、選択した編集作業を行うことができます。

3. さらに細かなイベント編集を行う場合は、[WINDOW]ボタンを押すことで行うことができます。

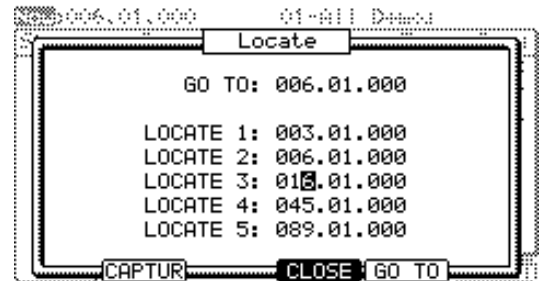
“EVENTS” ウィンドウが開き、それぞれ独立したイベント毎の細かな編集作業が行えます。[F5](DELETE)ボタンを押すことで、ひとつのイベントを削除することができます。



## ソング・モードの変更点

### ロケート機能

ソング・モードにおいてメイン・モードと同様に、ロケート機能が使えるようになりました。ソング・モードにて[LOCATE]ボタンを押すことで、ロケート機能が利用できます。



**Tip:** ロケートについての詳細に関しては、MPC5000 リファレンス マニュアル P42 をご覧ください。

## レコーディング・サンプルモードの変更点

サンプルのレコーディングを行った際、ルート・ノートを設定することが可能となりました。

### ルート・ノート設定

このパラメータは、キーグループ・プログラムにおいて、どのキーを押した場合にオリジナル・キーが発音されるかを決定づけるものです。

ルート・ノート設定は“Keep or Retry”ウインドウ内において Root Note フィールドをカーソルにて選択し、[DATA]ホイールもしくは MIDI ノート情報を入力することで行うことができます。



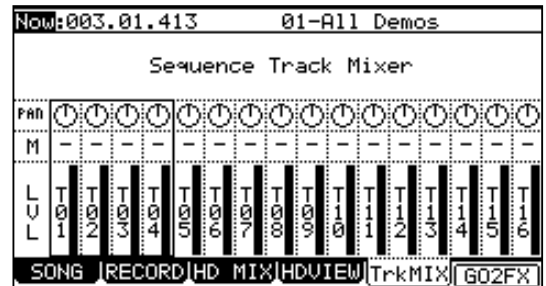
## HD RECORD モードの変更点

### HD RECORD モードでの Track Mix 操作

HD RECORD モードにおいて、Sequence Track Mixer を操作できるようになりました。このことで HD トラックレコーディング中にシーケンス・トラックのミキシングが行えます。

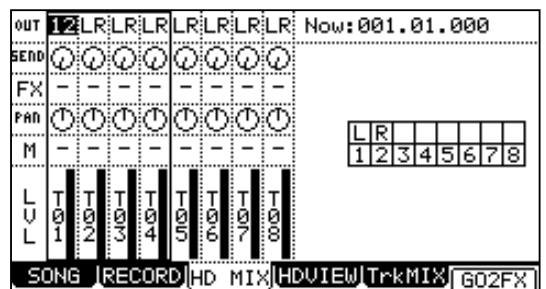
#### Track Mix の選択

HD RECORD モードの HD MIX ページで[F5] (TrkMIX) ボタンを押すと Track Mixer モードになります。



#### HD Mixer モードへの戻り

Track Mixer モードで[F3] (HD MIX)ボタンを押すと HD Mixer モードに戻ります。



## ハードディスク・トラックの編集機能における変更点

HD VIEW モードの Audio Edit ページで Cut や copy が Audio Only、Automation、Audio + Automation で以下の手順できるようになりました。

HD RECORD モードで、[F4] (HDVIEW) ボタンを押すと HD VIEW ページが開きます。

1. EDIT ボックスにチェックを入れてエディットしたいトラックを選びます。
2. [F6] (EDIT)を押して AUDIO EDIT ページを開きます。
3. 'Edit' フィールドで CUT か COPY を選びます。
4. Type' フィールドで以下のいずれかを選びます。

#### **AUDIO+AUTOMATION**

Audio と Automation 両方がコピーもしくはカットされます。

#### **AUDIO ONLY**

Audio だけがコピーもしくはカットされます。

#### **AUTOMATION ONLY**

だけがコピーもしくはカットされます。

## MIXER モードの変更点

### Take Over モード

MIXER モードの SETUP ページにおいて、Knob/Slider Take Over Mode モードが追加となりました。

このモードを ON にすることで、Q-LINK コントローラーを操作した場合に、コントローラーの値が、現在設定されている値と一致ときにはじめて反映されるような動作となります。

この設定は TrkMIX, PrgMIX, HD MIX, SYNTH EFFECTS EDIT ページで機能します。

Knob/Slider Take Over Mode 設定 を ON にしている状態で、HD MIX モードの 1 チャンネルのボリュームが 70 に設定されている場合、Q-LINK ツマミが最小の位置にあったとすると、1 チャンネルのボリュームは Q-LINK が 70 を超えるまで変化しません。これでボリュームを滑らかに調整することができます。'Take Over Mode' が off に設定されているとボリュームコントロールが Q-LINK にすぐに反応します。

次の手順で設定を行います。

1. MIXER モードで[F3] (SETUP)を押してください。  
SETUP ページが開きます。
2. 'Knob / Slider Take Over Mode' フィールドで'ON'を設定します。  
Take Over Mode が選択されました。



**注意** 'Take Over Mode' は TrkMIX, PrgMIX, HD MIX, SYNTH, EFFECTS EDIT ページで有効です。Q-LINK モードでの Q-Link の設定は Take Over モードに関係なくすぐに動作が反応します。

## MIXER モードでの Track Mute 設定

Record / Play Track Mute Events と Instant Track Mute の選択が MAIN モードからできるようになりました。この設定は MIXER モードの SETUP タブからも同様にできます。



**備考:**トラック・ミュートオプションの詳細に関しては、本書 3 ページのトラック・ミュートを参照ください。

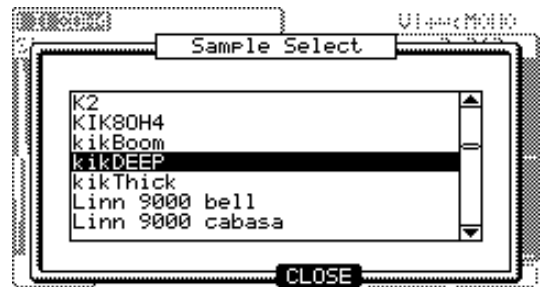


## TRIM モードの変更点

### Sample のポップアップリスト

TRIM モードで Sample を選択する時、メモリーに入っているすべての Sample がスクロールリストに表示されるようになりました。

パッドを叩くと選ばれている Sample 音が確認できます。[F4] (CLOSE)を押すともとのウィンドウに戻ります。



**TIP:** [SHIFT] ボタンを押しながらカーソルの上 / 下を押すと、サンプルリストの最初 / 最後にジャンプすることができます。また[SHIFT] ボタンを押しながら[NUMERIC] キーを押すことで頭文字のサンプルにジャンプすることができます。

## チョップショップ機能 (ChopShop) の変更点

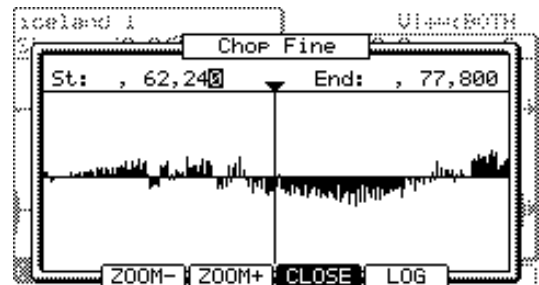
### Zoom

Chop Fine のウィンドウで Chop Point をズームする事ができ細かくエディットする事ができるようになりました。エディットしたい Region を選び、'St' (Start) または 'End'にカーソルを合わせます。[WINDOW]ボタンを押すと Chop Fine ウィンドウが表示されます。

Chop Fine ウィンドウでカーソルの場所のそれぞれスタートポイント、エンドポイントの波形が表示します。

カーソルが'St' (Start)フィールドを選んでいるとスタートポイントがウィンドウの中央に表示されます。またカーソルが'End'フィールドを選んでいるとエンドポイントがウィンドウの中央に表示されます。

[F2] (ZOOM-)ボタンを押すと波形がズームアウトします。また[F3] (ZOOM+)ボタンを押すと波形がズームインします。



### Linier と LOG の表示

LINEAR ボタンを押すと波形が LINEAR 表示されます。波形は通常 LINEAR に設定されています。

[F5] (LOG)ボタンを押すと波形が LOG 表示されます。

Fade Out の波形などレベルが低くて確認しにくいものなど表示する時に便利です。

### パッチド・フレーズ からスライス・サンプルへのコンバート

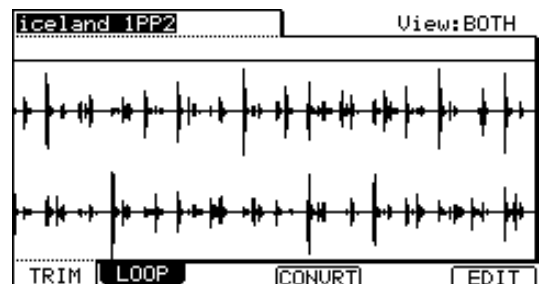
パッチド・フレーズから、スライス・サンプルへコンバートが行えるようになりました。

パッチド・フレーズ をそれぞれのセクションにあてはめる手順は次の操作です。

1. Slice したい Patched Phrase を選択し [F4] (CONVRT) ボタンを押します。

#### Create New Program

Yes に設定すると MPC5000 はそれぞれの Region を PAD A01 から A16 にアサインしたプログラムを自動的に作成します。



## 2. [F5] (DO IT)を押します。

MPC5000 は SLICED SAMPLES を実行します。'TRIM' ページでスライスされたサンプルが表示されます。

分割されたサンプル名はオリジナルサンプル名にナンバーがついたサンプル名になります。

例えば：        Sample01 >    Sample01-01  
                                 Sample01-02  
                                 Sample01-03



## その他の改善点

### TRIM モードでのサンプル・アサイン

サンプルを直接パッドにアサインするには方法は以下の操作手順になります。

1. TRIM モードで[SHIFT] を押したままの状態にする。

右の図のように表示されます。

2. サンプルをアサインしたいパッドを叩きます。

サンプルが現在選ばれているプログラムにアサインされます。



### エディットしたいパッドのサンプル選択

TRIM モードで現在の選ばれているプログラムから簡単にサンプルを以下の手順で選べるようになりました。

1. [LOCATE] ボタンを押したままの状態 にします。

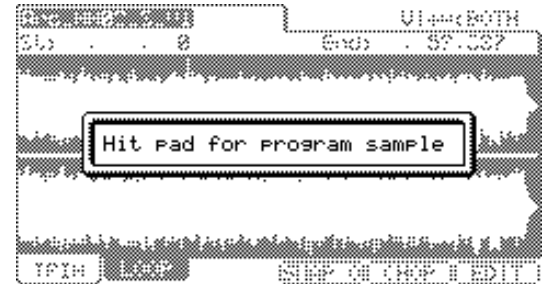
右の図のように表示されます。

2. [LOCATE] ボタンを押した状態で選択したいパッドを叩いてください。

プログラムにアサインされたサンプルを聞くことができます。

3. エディットしたいサンプルが選択されたら[LOCATE] を放してください。

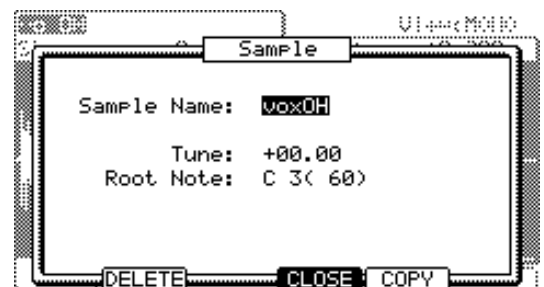
TRIM モードでサンプルが自動に選ばれます。



### サンプルの Root Note の設定

TRIM モードのサンプル選択フィールドで[WINDOW] ボタンを押すと SAMPLE ページが開きます。ここでサンプルの Root Note を設定する事ができます。この Root Note パラメーターは、キーグループプログラム でどのツループッチでプレイするかを選択します。

このフィールドは[DATA]ホイールで設定します。また MIDI キーボードからのノートオンでも設定する事ができます。



## サンプルエディットの新機能

### ■ ゲイン機能 (Gain)

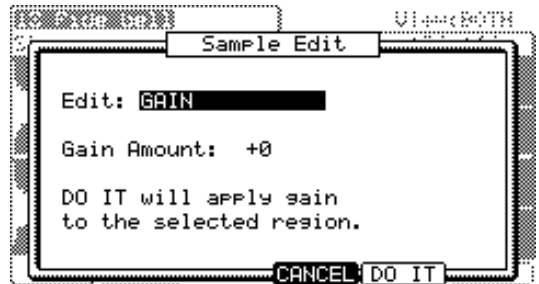
TRIM モードの EDIT ページでサンプルのボリュームを 18db まで増減できるようになりました。この機能はノーマライズ機能と違い、クリップポイントを超えてもブーストします。この音の歪みはエフェクト効果を期待できますが、出力レベルには十分ご注意ください。

#### Gain Amount

このフィールドでどれくらいボリュームを増減するかを設定します。このパラメーターは ±18dB まで設定できます。

[F4] (CANCEL) / [F5] (DO IT)

[F4] (CANCEL) を押すと中止され、[F5] (DO IT) で実行します。



### ■ ビットリデュース機能 (Bit Reduce)

ビットリデューサーはサンプルのビットを減らします。ビットリデューサーを使うことによってディストーションのざらつきを使わなくてもドラムループサウンドにダーティーなエフェクト効果を作る事ができます。これはリサンプル効果に似ていて、もとのサンプルは変更されてしまいます。

#### Bit Depth

このフィールドでビットの値を設定します。目安としてヴィンテージサンプラーサウンドは (12bits)、80 年代のコンピュータのサウンドは(8bits)、初代ゲーム機のサウンドは(4bits)に設定します。

[F4] (CANCEL) / [F5] (DO IT)

[F4] (CANCEL) を押すと中止され、[F5] (DO IT) で実行します。



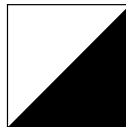
### ■ フェードイン機能 (Fade In)

この機能は設定された'St'と'OUT'ポイントの間で自動的にフェードインします。

次の中からフェードタイプを選択する事ができます。

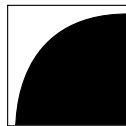
#### LINEAR

スタートからエンドまでまっすぐにフェードインします。



#### LOG

ログカーブでフェードインします。最初は急にそして最後はゆっくりフェードインします。



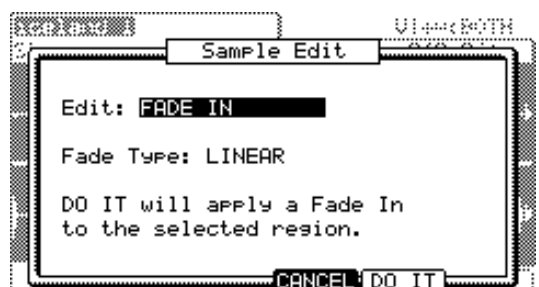
#### EXP

エクスポネンシャルカーブでフェードインします。最初はゆっくりそして最後は急にフェードインします。



[F4] (CANCEL) / [F5] (DO IT)

[F4] (CANCEL) を押すと中止され、[F5] (DO IT) で実行します。



## ■ フェードアウト機能 (Fade Out)

この機能は設定された'St'と'OUT'ポイントの間で自動的にフェードアウトします。  
次の中からフェードタイプを選択する事ができます。

### LINEAR

スタートからエンドまでまっすぐにフェードアウトします。



### LOG

ログカーブでフェードアウトします。最初は急にそして最後はゆっくりフェードアウトします



### EXP

エクスポネンシャルカーブでフェードアウトします。最初はゆっくりそして最後は急にフェードアウトします。



### [F4] (CANCEL) / [F5] (DO IT)

[F4] (CANCEL) を押すと中止され、 [F5] (DO IT) で実行します。



# プログラム モードの変更点

## キーグループ・プログラム

プログラムの種類として、新たに“キーグループ”(KEYGROUP)プログラムの作成が可能となりました。

キーグループ・プログラムによって、キーマッピングプログラム、マルチサンプルプログラムが可能となります。

サンプル・プログラムでは行えなかった、外部 MIDI キーボードによる、サンプルの音階演奏を行えます。

キーグループによって、すべてのキーボードに対して、ペロシティースイッチ、クロスフェード、キーレンジを使う事ができます。

1つのプログラムには128までキーグループを持つ事ができそれぞれのキーグループには4つまでのサンプルを持てます。合計512個のサンプルを扱うことができます。

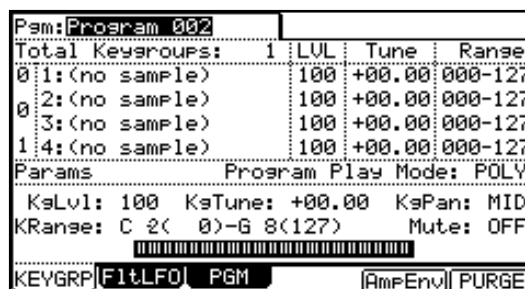


### キーグループ・プログラムの作成

キーグループ・プログラムの作成は次の手順で行います。

1. プログラムモードで'PGM'フィールドを選択します。
2. [WINDOW] キーを押した後、[NEW](F3)を押します。  
NEW PROGRAM ウィンドウが表示されます。
3. 'Program Type' フィールドで KEYGROUP を選択します。  
'New Name' フィールドでプログラムの名前をつける事ができます。
4. [F5] (DO IT) を押すとキーグループプログラムができます。

右図のようにサンプルページに似たスクリーンが表示されます。つぎの新たなパラメーターが追加されています。:



#### Total Keygroups

プログラム内のキーグループのトータル数を表しています。

#### KgLvl

キーグループ全体のボリュームを設定します。

サンプルプログラムのように、個別のサンプルのレベルは LVL フィールドで設定します。

#### KgTune

キーグループ全体のチューニングを設定します。

#### KgPan

キーグループ全体のパンニング(左右の定位)を設定します。.

#### KRange

選択されているキーグループのキーレンジを設定します。

ハイとローの間で設定されたサンプルが再生されます。

**備考:** このフィールドで MIDI キーボードでのノートオンでもキーレンジを設定する事ができます。

## キーグループの増やし方

新しいキーグループプログラムを作成した時、そのプログラムのキーグループは一つだけで構成されています。

プログラムのキーグループは以下の手順で 128 まで増やす事が可能です。

(それぞれのキーグループには 4 つまでサンプルを持つ事ができます。)

1. プログラムモードで'Total Keygroups' フィールドを選択します。

2. [DATA]ホイールを使って新しい数を選択します。

PROGRAM KEYGROUPS ウィンドウが表示されます。

ここでプログラムに新たなキーグループを追加する事ができます。

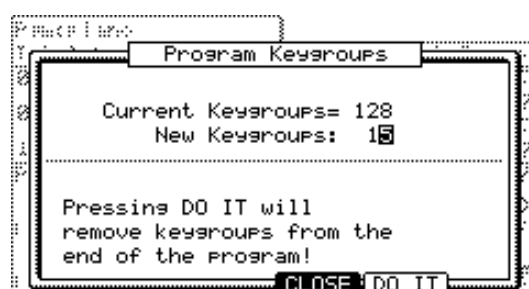
3. [DATA] ホイールを使って希望するキーグループの数を設定します。

4. [F5] (DO IT) を押すと実行されます。

Psm:Piano			
Total Keygroups:	LVL	Tune	Range
0 1:Pno d#	100	+00.00	000-127
0 2:(no sample)	100	+00.00	000-127
0 3:(no sample)	100	+00.00	000-127
1 4:(no sample)	100	+00.00	000-127

Params Program Play Mode: POLY  
 KsLvl: 100 KsTune: +00.00 KsPan: MID  
 KRang: C 2( 0)-G 8(127) Mute: OFF

KEYGRP [FitLFO] PGM [AmfEnv] [PURGE]



5. 他のキーグループを選択する方法は、サンプルリストの左側のキーグループ番号フィールドを選択して[DATA] ホイールを操作してください。

MULTI を選択すると全てのキーグループを同時にエディットする事ができます。

Psm:Piano			
Total Keygroups:	LVL	Tune	Range
0 1:Pno d#	100	+00.00	000-127
0 2:(no sample)	100	+00.00	000-127
0 3:(no sample)	100	+00.00	000-127
0 4:(no sample)	100	+00.00	000-127

Params Program Play Mode: POLY  
 KsLvl: 100 KsTune: +00.00 KsPan: MID  
 1 Range: C 2( 0)-G 8 [AmfEnv]: OFF

KEYGRP [FitLFO] PGM [PURGE]

ヒント: その他のキーグループの選択方法として、[SHIFT]ボタンを押しながらパッドを叩くことで、選択が行えます。パッド 16 を叩くと 16 番目のキーグループが選択されます。パッドを 2 度叩くと 64 を超えたところのキーグループが選択されます。(たとえばパッド 1 を 2 度たたくとキーグループ 65 が選択されます。)

[LOCATE] ボタンを押しながらパッドを叩くか外部の MIDI キーボードのノートオンで現在使われているキーグループを選択する事ができます。繰り返し同じキーを押すと使われている全てのキーグループが順次選択されます。

## サンプルレイヤークロスフェードの設定

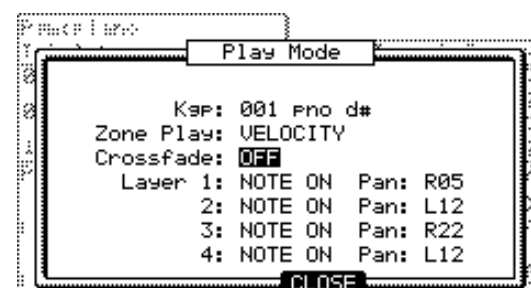
ベロシティスイッチに追加してサンプルのクロスフェードができるようになりました。これは特定のキーグループの中で二つのサンプル音の移り変わりを滑らかなにします。

キーグループでのクロスフェードは次の手順で設定します。

1. サンプルを 1 つ選択します。

2. [WINDOW] ボタンを押します。

PLAY MODE ウィンドウが表示されます。



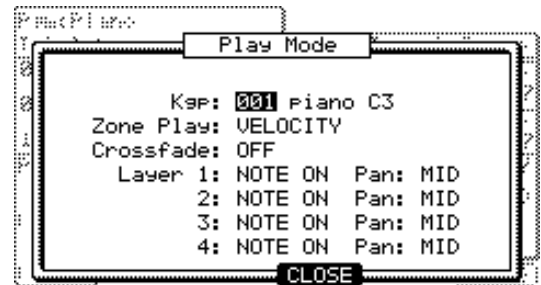
3. 'Crossfade' フィールドで'ON' を選択します。

**Tip:** 2 つのサンプル間のクロスフェード機能は2 ヴォイス使います。もしこの機能を使わない時はクロスフェードをオフにしておいた方が MPC5000 のパフォーマンスがよくなります。

### 各サンプルのパンニングの設定

PLAY MODE ウィンドウの中でサンプルがパンニングできるようになりました。それぞれの4 つのサンプルの'PAN'フィールドを選択し、パンの値を設定します。

1. サンプルを選択します。
2. [WINDOW] ボタンを押します。
3. 'PAN'フィールドにて設定します。

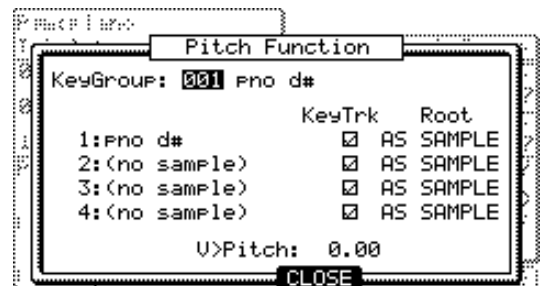


### チューニングとルートノートの設定

キーグループの中のサンプルがサンプルプログラムのように個別にチューンできます、さらにルートノートも設定できるようになりました。マッピングしたサンプルのオリジナルノートデータを自動的にルートノートに設定する事もできます。

サンプルのルートノートの設定は次の手順で行います。

1. PROGRAM ページで TUNE フィールドを選択します。
2. [WINDOW] キーを押します。  
PITCH FUNCTION ウィンドウが表示されます。
3. 'Root' フィールドの中で、サンプルのルートノートが設定できます。



ルートノートをここで設定します。'AS SAMPLE' を選択するとサンプルのデフォルトピッチが使われます。MIDI キーボードからのノートオンでもルートノートを設定する事ができます。

### キートラッキングの設定

サンプルがキーグループの設定を無視してキーグループレンジ内でルートノートピッチで再生させる事ができるようになりました。

これはパーカッション・サウンドや特殊な効果音などに便利な機能です。個々に設定できるようになりました。

以下の手順でキートラッキングをオフに設定します。

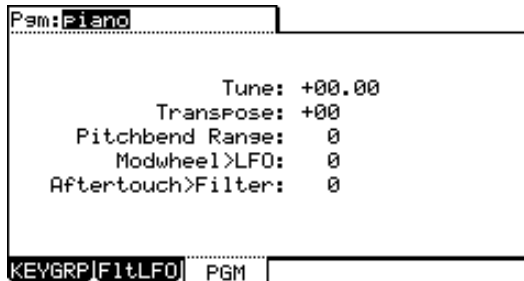
1. PROGRAM ページで TUNE フィールドを選択します。
2. [WINDOW] キーを押します。  
PITCH FUNCTION ウィンドウが表示されます。
3. KeyTrk フィールドでキートラッキングをオフにしたいサンプルのチェックマークを外してください。

## キーグループ・チューンとトランスポーズの設定

キーグループ・プログラム全体のトランスポーズとチューニングを設定することができます。チューニングとトランスポーズは音の素材によって違った音程で再生される事があります。アサインされたサンプルを演奏した時に違ったピッチで再生された時はトランスポーズやチューンでピッチを調整することができます。

TUNE、TRANSPOSE は以下の手順で設定します。

1. PROGRAM モードで[F3] (PGM) を押します。
2. Transpose'を選択します。
3. キーグループ・プログラムは +/- 36 セミトーン (3 オクターブ) までトランスポーズすることができます。
4. 'Tune' を選択してプログラムのチューニングの調整もできます。



## ピッチベンド / モジュレーションホイール・アフタータッチの設定

プログラムページにおいて、ピッチベンドレンジ、モジュレーションホイール・デプス、アフタータッチ・アムウントは設定することができます。

Program モードで[F3] (PGM) を押してください。

### Pitchbend Range

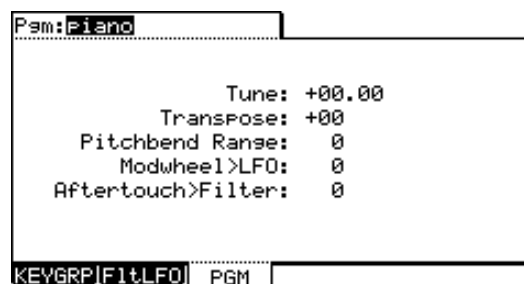
ピッチベンドは MIDI のピッチベンドに反応します。0-12 セミトーンの範囲で設定できます。

### Modwheel>LFO

モジュレーションホイールは LFO のデプスをコントロールします。0-100% の範囲で設定できます。

### Aftertouch>Filter

アフタータッチはフィルターのカットオフをコントロールします。0-100% の範囲で設定できます。



## サンプルプログラムの改善点

以下の項目がサンプルプログラムの改善点です。ドラム、ループ、スライスでよく使われます。

### プリ・サンプル・パンニングの設定

サンプルが個別にパンニングできるようになりました。次の手順で各サンプルのパンを調整できます。

1. PROGRAM モードでパンニングしたいサンプルを選択します。
2. [WINDOW] ボタンを押します。

PLAY MODE ウィンドウが表示されます。それぞれアサインされたサンプルが表示されます。

3. それぞれのサンプルのパンを 'Pan' フィールドで設定します。





## マルチ・パッド・エディットの設定

MPC5000 はすべてのパッドを同時にエディットできるようになりました。マルチパッドエディットはパッド全ての設定を同時に変更することができます。

1. 右図のように PROGRAM モードで 'Pad Number' フィールドを選択します。

Psm: Ambient Kit1			
Sample	LUL	Tune	Range
1: Ambient Kick	100	-06.00	000-127
2: (no sample)	70	+00.00	000-127
3: (no sample)	70	+00.00	000-127
4: (no sample)	70	+00.00	000-127

Params Program Play Mode: POLY  
 Voice: POLY Psm Tune: +00.00  
 Mute Group: OFF  
 Mute Target: OFF OFF OFF OFF

SAMPLE | FitLFO | NOTE | SIMULT | AmpEnv | PURGE

2. [DATA]ホイールを左にスクロールするか、[-]ボタンを押して MULTI を選択します。

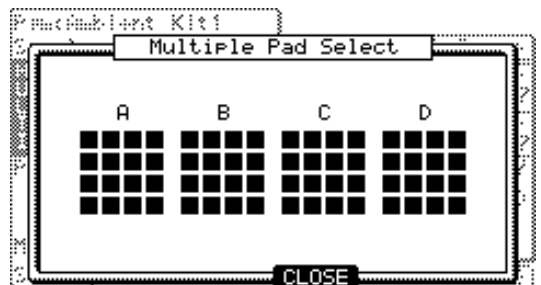
'Pad Number' フィールドは右図のように 'MULTI' と表示されます。

Psm: Ambient Kit1			
Sample	LUL	Tune	Range
MULTI 1: Ambient Kick	100	-06.00	000-127
2: (no sample)	70	+00.00	000-127
3: (no sample)	70	+00.00	000-127
4: (no sample)	70	+00.00	000-127

Params Program Play Mode: POLY  
 Voice: POLY Psm Tune: +00.00  
 Mute Group: OFF  
 Mute Target: OFF OFF OFF OFF

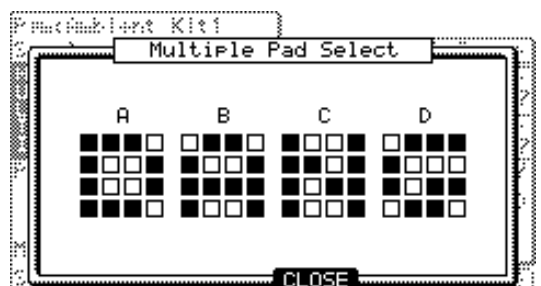
SAMPLE | FitLFO | NOTE | SIMULT | AmpEnv | PURGE

3. 'MULTI' が選択されていると全てのパッドに変更が適用されます。以下の方法で選択した特定のパッドだけを同時にエディットする事もできます。



4. 'Pad Number' フィールドを 'MULTI' に設定した状態で、[WINDOW] ボタンを押します。

右図のように MULTIPLE PAD SELECT ウィンドウが表示されます。



5. エディットしたいパッドを叩きます。

エディットしたいパッドを複数選択できます。

## プログラムチューンの設定

サンプルプログラム全体のチューンを ±36.00 セミトーンで設定する事ができるようになりました。プログラムチューンの設定は次の手順で行えます。

1. 右図のように PROGRAM モードで 'Pgm Tune' フィールドを選択します。
2. [DATA] ホイール、[+]/[-] キー、もしくはテンキーを使ってプログラムチューンを設定します。

Pgm: Ambient Kit1			
Sample	LVL	Tune	Range
A 1: Ambient Kick	100	-06.00	000-127
0 2: (no sample)	70	+00.00	000-127
0 3: (no sample)	70	+00.00	000-127
1 4: (no sample)	70	+00.00	000-127

Params		Program Play Mode: POLY	
Voice:	POLY	Pgm Tune:	+00.00
Mute Group:	OFF		
Mute Targset:	OFF OFF OFF 0	AmpEnv	

SAMPLE FltLFO NOTE SIMULT PURGE

## エンベロープクイックアクセス

アンプエンベロープとフィルターエンベロープのエンベロープクイックアクセスボタンが追加されました。

- サンプルページで [F5] (AmpEnv) を押すと Amp Envelope ページにクイックアクセスします。
- Flt LFO ページで [F5] (FltEnv) を押すと Fliter Envelope ページにクイックアクセスします。

Pgm: Piano			
Total Keygroups: 128	LVL	Tune	Range
0 1: Pno d#	100	+00.00	000-127
0 2: (no sample)	100	+00.00	000-127
0 3: (no sample)	100	+00.00	000-127
1 4: (no sample)	100	+00.00	000-127

Params		Program Play Mode: POLY	
KsLvl:	100	KsTune:	+00.00
KsPan:	MID	KsRange:	C 2( 0)-G 8(127)
Mute:	OFF		

KEYGRP FltLFO PGM AmpEnv PURGE

## 追加改善点

### サンプルのアサイン

サンプルをパッドにアサインする時、表示されるサンプルがリストの中の最初のサンプルではなく、最後に選ばれたサンプルを記憶して表示するようになりました。

## EFFECT モードの変更点

### エフェクト セットアップのコピー/ペースト/スワップ 機能

エフェクトタイプやセットアップのコピー/ペースト、スワップ機能が追加されました。この機能で異なるバスやエフェクト間でエフェクトのコピーそしてペーストが簡単に行えるようになります。

#### [F2] COPY

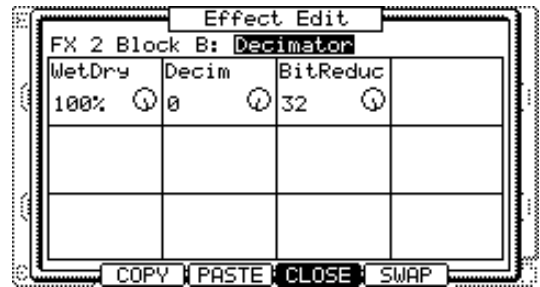
このボタンによって、ペーストもしくはスワップを行う際に、エフェクトタイプとすべてのエフェクト・セットアップをメモリーにコピーします。

#### [F3] PASTE

このボタンによって、メモリーにコピーされたエフェクトを現在選択されているエフェクトと置き換えます。

#### [F5] SWAP

このボタンはメモリー内のエフェクトと選択されているエフェクトを入れ替えます。再度この"SWAP"ボタンを押すことで現在のエフェクトとその前のエフェクトが入れ替わります。



#### エフェクトリスト上での操作性の向上

[SHIFT]ボタンを押しながら、カーソルの[上]ボタン、もしくは[下]ボタンを押すことで、リスト上の初めと最後へ簡単に移動ができるようになりました。さらにテンキーのアルファベットキーを押すことで、エフェクトタイプの頭文字に従ってジャンプ移動が可能となりました。

## DISK モードの変更点

### サンプルロード時の自動プログラム・アサイン機能

これまで、サンプル・データのみが入ったフォルダーを、ロードフォルダー機能によってロードしたサンプルは、新しいプログラムを作成し各パッドへサンプルをセットしてきました。

この機能によって、自動に新しいプログラムが作成され、各パッドへセットされます。もしロードするサンプル・データの数 が 64 個以上の場合は、さらに新しいプログラムが作成されます。それらのプログラムは 001 を初めとした番号によって名前がつけられます。

下記手順となります。

DISK モードにて、ロードするフォルダにカーソルを合わせて選択します。

1. F6[DO IT] ボタンを押します。

右の図のように、“Load a Folder” ウィンドウが開きます。

2. “LOAD”フィールドにて、“SAMPLES INTO NEW PGMs”を選択します。

“Replace same files in memory”フィールドも設定します。

3. F5[DO IT]ボタンを押します。

選択されたフォルダ内のサンプルデータは新しいプログラムに自動で各パッドへ設定されます。もし 64 個以上のサンプル・データがある場合は複数のプログラムが作成されます。



**Tip:** ディスクモードの詳細に関しては、MPC5000 リファレンス マニュアル P145 をご覧ください。

### サンプルデータロード時の新しいプログラムの作成

サンプル・データをロードする際に新しいプログラムを作成できるようになりました。下記のような手順となります。

1. DISK モードにおいて、カーソルをロードしたいサンプルに合わせ選択し、F6[DO IT]ボタンを押します。

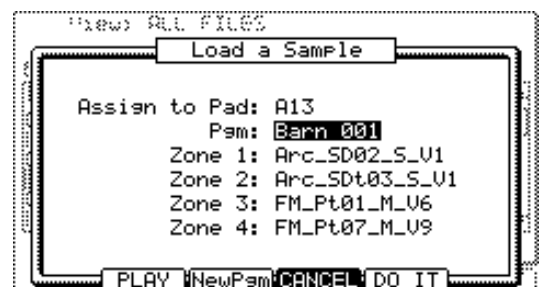
右の図のように、“Load a Sample”ウィンドウが開きます。

2. [F3] (NewPgm) ボタンを押します。

右の図のように、“New Sample Program”ウィンドウが開きます。そしてプログラム名を入力します。

3. F5 [DO IT]ボタンを押します。

新しいプログラムが作成されました。



## その他、変更点

### サンプルのロード

サンプルをロードする際に、選択されたパッドに設定されている他のサンプルも表示するようになりました。

### シンセ・プログラムのオーディション

DISK モードで選択されたシンセ・プログラムのオーディション機能において、OTHER モードでノートナンバーが設定可能となりました。オーディション機能はそのノートナンバーで発音します。

### ファイル・ブラウザー上における操作性の向上

ファイル・ブラウザー上でテンキーを使ってファイル名の頭文字ごとにジャンプ移動ができるようになりました。テンキー上の同じボタンを繰り返し押すことで数字とアルファベットが切り替わり、個別の頭文字でジャンプ移動ができます。

下記操作により、膨大なファイル数のリスト上における操作性が向上しました。

[SHIFT]ボタン + カーソル[上]ボタン リストの最上部に移動します。

[SHIFT]ボタン + カーソル[下]ボタン リストの最下部へ移動します。

[SHIFT]ボタン + カーソル[左]ボタン ファイル閲覧を行っているドライブの最上位に移動します。

# Q-LINK モードの変更点

## FX Q - LINK 機能

Q-Link によるエフェクト・パラメータのコントロールが可能となりました。

FX Q-Link 設定は Q-LINK モード内にある [ F2 ] (FX Q)、通常の Q-LINK 設定は [ F1 ] (Prg Q) にて行います。

### FX Q-LINK スライダー 及びノブの設定

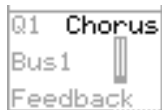
- [MODE] ボタン及び [PAD 1] ボタンを押して Q-LINK モードに入ります。、そして [F2] (FX Q) ボタンを押して FX Q-LINK ページを開きます。

右のようなスクリーンがディスプレイに表示されます。

それぞれの Q-LINK 設定はそれぞれ下記のようになります。

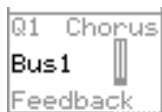
Q9 OFF	Q10 OFF	Q11 OFF	Q12 OFF
Q5 OFF	Q6 OFF	Q7 OFF	Q8 OFF
Q1 Chorus Bus1	Q2 OFF	Q3 OFF	Q4 OFF
Feedback			
Prg Q		FX Q	SETUP
		ALL R	RESET

#### FX Name



コントロールされるエフェクト名が表示されます。

#### Bus (Bus)



Q-LINK コントローラーが設定されているエフェクトバスが表示されます。

#### Parameter



Q-LINK によってコントロールされるエフェクト・パラメータ名が表示されます。

- Q-LINK コントローラーを選択します。

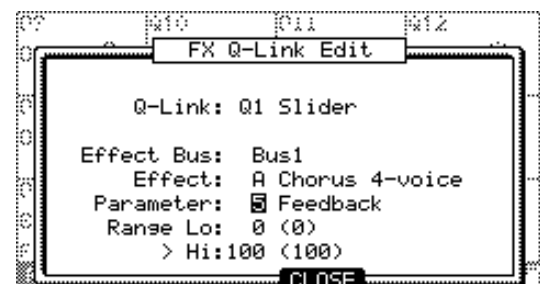
Q - L I N K コントローラーを動かした際に、Q - L I N K コントローラーは選択されます、またカーソルを操作することでも Q-LINK コントローラーは選択可能です。

- [WINDOW] ボタンを押します。

右の図のように FX Q-Link Edit ウィンドウが開きます。

- “Effect Bus” フィールドを選択して、コントロールしたいエフェクトが設定されているエフェクトバスを設定します。

データホイールを操作して、コントロールしたいエフェクトが設定されているエフェクトバスを選択いたします、もし Q-Link によるエフェクト・パラメータのコントロールを行わない場合は OFF に設定しておくことをお勧めいたします。



- “Effect” フィールドにてコントロールしたいエフェクトを選択します。

“Effect Bus” と “Effect” のそれぞれのフィールドへ設定を行います。

- “Parameter” フィールドにおいて、コントロールしたいパラメータを選択します。

“Effect” フィールド内に選択したエフェクトのコントロール可能な様々なパラメータを選ぶことができます。

7. “Range Lo and Hi”フィールドにおいて、スライダーもしくはノブを動かした際の、下限と上限の値を設定します。

このフィールドで決定された数値の範囲内でコントロールが可能となります、数値の範囲は“Parameter”フィールドで選択したパラメータの種類に依存します。

8. FX Q-LINK ページに戻るために [F4] (CLOSE) ボタンを押します。

## デフォルト Q-LINK モードの設定

Q-LINK コントローラーは、この “Default Q-Link Mode” に設定したモードに従って “PROGRAM Q-Link” モードもしくは “FX Q-Link” モードのどちらかで動作いたします。

ここで設定したモードは Q-Link モード外のモードで有効となります。

デフォルト Q-LINK モードの設定方法は下記ようになります。

1. Q-Link モードにて、[F3] (SETUP) ボタンを押します。



2. デフォルト Q-Link モードとして、Q-LINK モードを “Default Q-Link Mode” フィールドに設定します。

### PROGRAM

Q-LINK モード外で、プログラム Q-LINK として動作いたします。

### EFFECT

Q-LINK モード外で、エフェクト Q-LINK として動作します。

*Tip: Q-Link モード内の Q-Link コントローラーの動作にかんして、Pgm Q ページ内では常に PROGRAM に対して Q-Link コントローラーが動作します、FX Q ページ内では EFFECT に対して Q-Link コントローラーが動作いたします。*

## デフォルト Q-LINK モードの切り替え

Q-LINK コントローラーの動作は、[SHIFT] ボタンを押している間だけ、デフォルト Q-LINK モードで設定されていないモードで動作させることが可能です。

## MIDI / SYNC モードの変更点

### MIDI プログラムチェンジによるアクティブ・トラック選択

シーケンサー上のアクティブトラックが外部MIDIのプログラムチェンジによって選択できるようになりました。右の図のように“MIDI Program Change”フィールドに“TRACK”を選択いたします。





## OTHER モードの変更点

### プログラム・オーディション・ノート

DISKモードにおいて[F5](PLAY)ボタンを押したときに発音するノートの指定がOTHERモードで可能となりました。右の図のように“Program Audition Note”フィールドを選択し、ご希望のノートを選びます。

```
Master Level: -12dB
Sus Pedal to Duration: NO
Truncate Duration: TO SEQ LENGTH
Record Pad Aftertouch: NO
Tap Average: 2
Flash Tempo LED: ALWAYS
Mute/Stop of One-Shot: THROUGH
ADAT Chan 1+2: MAIN OUT L&R
Program Audition Note: C3(60)
```

OTHER | FOOTSW | PAD | SYSTEM

### 新しいフットスイッチ項目

フットスイッチページにおいて下記の項目が追加されました。

#### ■ NEXT TRACK

フットスイッチを踏んだ際、現在選択されているトラックの次のトラックに繰り返ります。

#### ■ PREV TRACK

フットスイッチを踏んだ際、現在選択されているトラックの一つ前のトラックになります。

#### ■ NEXT SEQUENCE

フットスイッチを踏んだ際、現在演奏されているシーケンスの次のシーケンスが選択されます。

#### ■ PREV SEQUENCE

フットスイッチを踏んだ際、現在演奏されているシーケンスの一つ前のシーケンスが選択されます。

#### ■ INC

フットスイッチを踏んだ際、[+]ボタンが押された時と同じ動作となります。

#### ■ DEC

フットスイッチを踏んだ際、[-]ボタンが押された時と同じ動作となります。

```
Foot Switch 1: PREV TRACK
Foot Switch 2: NEXT TRACK
```

OTHER | FOOTSW | PAD | SYSTEM

**Tips:** フットスイッチの詳細に関しては、MPC5000 リファレンス マニュアル P173 をご覧ください。

**AKAI**  
professional

---